



(下)

ともに学び、互いに刺激を

県立大国際経営学科の学生がベトナム・ダナン市でインターシップ（就業体験）に励んでいたところ、岩重聡美学科長はダナン市内の高校を回っていた。

「日本語教育に熱心な学校とお聞きしている。優秀な生徒を送っていただきたい」。岩重学科長はこう切り出し、県立大の概要や外国人留学生の受け入れ状況、学費の減免制度を説明。今後も定期的に情報交換したい意向を伝えた。

「生徒が県立大に留学することを私たちも望んでいる」。学校側の反応は好感触だった。しかし部屋には日本の別の大学のペナント

が飾られ、「売り込み」があっていることも垣間見えた。市人民委員会教育局によると、関東圏や九州の大学が学生募集で定期的にダナンを訪れているという。ある大学の担当者は「勤勉で日本に関心を持ってくれる学生も多く、有望視している」と話す。

ベトナムは、人口約9300万人のうち半数ほどを30歳未満が占める若国だ。日本語教育にも力を入れている。グローバル化の進展に加え、少子化で日本の18歳人口が減少傾向にある中、ベトナムから優秀な学生を確保したい。大学の競争は激しくなっている。

県立大を運営する県公立大学法人は9月、市人民委員会外務局と教育・文化振興や人材育成に関する包括連携協定を結んだ。外務局

人材育成



教育局の幹部と面会する岩重学科長（中央）ら
＝ベトナム・ダナン市人民委員会

は県立大が2014年度から試行している海外ビジネス研修に協力。岩重学科長の効果も出ていた。日本語学科がある3校を訪問したが、外務局の働き

掛けもあり、教育局のスタッフが同行するなど、協定の効果も出ていた。

局長は「日本語を話せる人

材がまだまだ必要」と強調する。ビーチリゾートとして脚光を浴び、日本から年間10万人超の観光客が訪れるダナン。約450ある海外からの投資プロジェクトのうち約120が日本関係で「メインに見ているのは日本のマーケット」と熱い視線を注ぐ。IT分野を中心とした産業集積も図っており、県立大が学部学科レベルで全国で初めて設置した情報セキュリティ学科にも注目する。

成長を続けるベトナムの活力を取り込もうと県も結び付きを強めようとしている。「両国の学生がともに学び、互いに刺激し合う環境をつくりたい」。県公立大学法人の稲永忍理事長はダナンと連携した人材育成に期待感を示し、強い意欲を見せた。

メ モ

日本のベトナム人留学生数 県内の大学・短大・高専計10校に在籍するベトナム人留学生は5月1日現在150人。

留学生全体の10.16%で中国(639人)、韓国(185人)に次いで多い。県立大は5人を受け入れている。国内では日本語学校を含め昨年5月1日現在5万3807人で全体の22.49%。中国(9万8483人)に次いで多い。